「総合的な学習の時間」における小・中・高の連携

「総合的な学習の時間」講座より

「総合的な学習の時間」では、小・中・高を通して国際理解や環境、福祉・健康、情報といった今日的な課題を取り上げる場合が多い。また、体験的・問題解決的な活動を取り入れようとすれば、どうしても学習の対象やフィールドは身近な地域になる。小学校から中学校、高等学校へと総合的学習の具体的な内容、活動をどう違えるのか、発展させるのか、その関連性・発展性・独自性をどう図っていくのかが今後大きな課題となる。「生きる力」についても、小学校から高等学校まで、共通の学力観の基に教育改革は進められる必要があり、「生きる力」の発展性をどう図るのかが問われる。学力観においても、総合的な学習の具体的な内容においても、小学校から高等学校へのタテの連携・協力が必要になってくる。

今後は、具体的な活動における連携も期待される。例えば、小学生の飼育・栽培活動に農業高校の生徒がアドバイスしたり、小学生と中学生が共同で地域の環境問題を追究したりすることなどが可能となる。

中学校では小学校での、高等学校では中学校での総合的な学習の取組や培った力の把握が、カリキュラムづくりに必要である。個々の子どもが作成したポートフォリオの提出や授業参観などで、子どもの実態を把握しておきたい。